

飛躍する2学期、毎日の生活に美しさを求めて

42日間の夏休みが終わり、2学期が始まりました。今年の夏は、連日の酷暑、台風等の風水被害が多い休みでしたが、休み中は大きな事故等もなく2学期が迎えられたことを嬉しく思います。夏休み前半は、野球、女子バスケ、女子卓球、剣道、陸上の各部が県大会に出場し、吹奏楽部が地区大会において銀賞受賞と酷暑の中、どの部も大健闘をしました。ご声援ありがとうございました。さてこの夏、4月に実施した全国学力テスト、県学力学習状況調査の結果が公表されました。詳細は、来月の学校だよりで掲載しますが、前年度よりも概ね学力は向上し、自己有用感や規範意識の向上等も改善してきました。全体的に落ち着いた学校生活が行われている今が学力や生活力を高めしていくチャンスです。今学期も授業を大切に、行事等で生徒たちの心を耕し、「居がい やりがい 行きがいのあるいい雰囲気にあふれる学校」を目指していきますので、引き続き本校の教育活動に関して何卒ご理解とご支援をお願いします。

社会に通じる人を育てる 品位や品格は、美しく生きること

今夏も、子供を取り巻く痛ましい事故や大人社会での不正など心を痛める出来事がありました。一方で金足農業高校の球児の活躍やスーパーボランティア尾畠さんの報道を見聞きし、感動は人を変え、夢は人の心を豊かにすることを実感しました。2学期は、体育祭、音楽会など様々な行事があります。教室での座学では学べない様々な体験を通じて、心を育て、より人らしく生きていくことを願っています。しかし、人は生きていく上で、ときには何が正しいのか、どうしたらよいのかと判断に迷うこともあることと思います。

日本画家の平山郁夫氏は、毎日生きていく上で、様々な選択肢が目の前に現れるときに、何を基準にものごとを判断し自分の行動を決めるかということに「美しいかどうか」が基準であるといっています。美しいものには力があり、生き物は美しいときほど盛んに生き栄える、美しくないものはたとえ一時的に目を奪っても長く輝き続けることはできない。私たちは美しさを追求しながら生きている。好きな音楽を聴いているとき、その美しいメロディーや歌詞に聞きほれて無心になることがあります。音楽に限らず、絵や映画、小説、スポーツなど美を追求する心が人の精神を高めていきます。そして、今よりも上のもの、より良いもの、より美しいものを求め、自分の心の腑に落ちたときに、人としての品格も備わってきます。ただ楽しければいいというだけのレベルではなかなか品格を備えることはできません。品格を身に付けた人は、機微に気づく人です。日常生活もちろん、人間関係も身だしなみも含めて自分自身のことに対して美しくあるべきです。さらにこの美しさの中には様々な真実も隠されています。「弱いものいじめはいけない」「お年寄りを大切に」「暴力はいけない」といった人間としてのあるべき行動も美しさです。本校の目指す生徒像は「当たり前前の方が当たり前前のできる

生徒」ですが、これは同時に社会に通じる人づくりでもあります。日頃の挨拶、言葉遣い、制服の着こなしなどすべてにおいて、美しさを意識出来たら、心は豊かになり、意欲も湧き学力は自然に身に付いていくことではないでしょうか。一人一人の気遣いだけで、今ある社会も、もっと美しく輝くことと思います。

参考「ぶれない」より平山郁夫 2008

